

令和5年度普及活動の実績

普及活動の軌跡

(Part - 29)



トマトの販売力強化に向けた協議



梨の枝抜き講習会



ネギの1条トンネル設置実演会



農業経営体育成セミナー相互視察研修

令和6年3月
長生農業事務所
長生農業改良普及事業協議会

成 果 集 発 刊 に あ た っ て

長生地域の農業は、温暖な気候の下、生産者の高い技術と意欲で築き上げられた「長生／ながいきブランド」の産地として発展してきました。

令和５年度の普及指導計画では、「第６次長生地域農林業振興方針」に基づき、「地域を支える多様な担い手の育成・確保」、「力強い園芸産地づくり」、「水田をフル活用した水田農業経営の安定化」、「畜産経営の体質強化」について、農業・農村の活性化、安全な食糧の安定供給、気候変動及び自然災害等への対応を含めた普及指導課題に取り組みました。

担い手の育成については、新規就農希望者に対し関係機関と連携を図り営農開始に向けた支援を行うと伴に就農後の早期定着を支援しました。また、安定的な経営を行えるよう、学習の機会を設けることにより栽培技術・経営管理の能力向上に向けた指導を行いました。

長生地域の主力品目であるトマト、ねぎ、たまねぎ、梨などでは、産地の維持・振興に向けて、新たな担い手の確保、機械導入等による省力化、販売力向上の取組、重要病害虫への防除技術の向上等の活動を展開しました。

水田営農については、稲作の収益力向上を目指し技術改善に取り組むと伴に、集落営農組織や個別経営体の経営改善を支援しました。畜産では、高騰する輸入飼料への対応として、耕畜連携の推進とコントラクター組織を利用した国産粗飼料の安定生産を推進しました。

新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い、感染防止への配慮は行いつつも現地検討会など、直接農業者に接した普及活動も徐々に従来通り実施できるようになりました。令和５年度においても展開計画に基づき、活動方法を工夫して計画的に普及活動を実施しました。

本冊子では、令和５年度の上記活動の中から、「普及活動の成果・報告」４課題、「情報提供」５課題について、生産者の皆様をはじめ、市町村、農業団体、試験研究機関等の協力を得ながら「普及活動の軌跡 P a r t - 2 9」として取りまとめました。

これらを今後の長生地域での農業振興、事業推進等に御活用いただければ幸いです。

令和６年３月

長生農業事務所

所 長 中嶋 浩之

目 次

1 普及活動の成果・報告

- (1) 持続可能な水稻経営を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - ― 一宮町稲作研究会の挑戦 ―
 - 【第23回千葉県普及活動成果発表大会発表課題】
- (2) トマト販売力強化の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - ― 生産者の収益向上をめざして ―
- (3) 新規参入した若手農業者の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - ― 農業経営体育成セミナーを中心とした仲間作りの場を ―
- (4) 水稻直播栽培での苗立ち率向上の取組・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - ― コーティング種子の使用における播種方法の比較 ―

2 情報提供

- (1) タマネギ産地におけるべと病防除体系の検討・・・・・・・・・・11
 - ― 地域全体での防除意識の向上 ―
- (2) 一宮・岬梨組合一宮支部における、梨の新規就農者の育成・・・・・・・・12
 - ― 新規就農者の栽培技術の向上をめざして ―
- (3) 歴史ある長南町レンコン産地を守る・・・・・・・・・・・・・・・・13
 - ― 長南町蓮根組合の活動を通して ―
- (4) 水稻緑肥活用による化学肥料低減に向けた栽培技術の実証・・・・・・・・14
 - ― ヘアリーベッチの事例 ―
- (5) ネギの安定生産を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
 - ― 夏ネギ栽培研修会・トンネル設置実演会の開催 ―

3 参 考

- (1) 令和5年度普及現地情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- (2) 主な出来事・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

持続可能な水稲経営を目指して

— 一宮町稲作研究会の挑戦 —

活動事例の要旨

一宮町では、5戸の生産者が規模拡大への対応に悩んでいた。そこで、農業事務所では、5戸の生産者を重点支援対象に位置づけ、普及指導を強化した。しかし、個々では解決が難しい問題があることに気づき、行政も交えた集団で解決に取り組むために、生産者組織を設立し、生産者組織、町、農業事務所の連携体制を構築することを目標とした。

その結果、5戸の生産者が集まった一宮町稲作研究会が設立され、研究会、町、農業事務所の連携体制も構築できた。集団での活動により、農地集約の促進、規模拡大に対応する省力化技術や新品種の導入といった成果があった。また、集団での定期的な議論の場が設けられたことで、生産者と行政が一体となって、一宮町の水田営農の将来構想が検討されるようになった。

1 活動のねらい・目標

一宮町では水稲生産者の高齢化や後継者の不在、米価低迷や生産費高騰による経営の悪化などに伴い、小中規模の水稲生産者の離農が相次ぎ、水田保全が危ぶまれていた。空いた水田の多くは、それぞれの地区を代表する5戸の生産者に集積されていき、5戸の生産者は「BIG5」と呼ばれるようになった。しかし、BIG5も規模拡大に伴い様々な問題を抱えることとなり、安定した水稲経営を持続できるか難しい状況になっていた。

そこで、農業事務所ではBIG5を重点支援対象に位置づけ、普及指導を強化することとした。また、個々では解決が難しい問題を行政も交えた集団で解決に取り組むために、BIG5を会員とした生産者組織を設立し、生産者組織、町、農業事務所の連携体制を構築することを目標とした。

2 活動の内容

(1) BIG5への普及指導の強化

規模拡大への対応、米価の下落、ジャンボタニシの被害増などBIG5が抱える問題が大きくなってきたことから、令和2年度にBIG5を重点支援対象とし、巡回の増加、各種事業の紹介、省力化技術の試験、新品種の栽培試験などを行った。また、BIG5のうち4戸は他品目との複合経営であったため、他品目の普及員と経営や雇用など共通する項目について情報共有するなど課内で連携して指導に当たった。

(2) 生産者組織設立に向けた働きかけ

BIG 5 個々への指導の中で、農地の集約などの問題解決には個別の活動だけでなく、BIG 5 が協力しながら集団で活動する必要があると感じた。そこで、周辺市町村の水稻生産者組織の組織体制や活動内容を参考にしつつ、BIG 5 の中でも最大規模の生産者に組織の設立を提案し、他の 4 戸には参加を呼びかけた。また、町にも設立や今後の活動に対する協力を要請した。

3 活動の成果

(1) 一宮町稲作研究会の設立

BIG 5 全員が会員となった一宮町稲作研究会が令和 3 年 9 月に設立された。研究会は生産者が運営する組織とし、町と農業事務所はアドバイザーとして参加している。

会設立により、BIG 5、町、農業事務所が定期的に集まり議論をする場が設けられるようになった。これまで令和 3 年度に 3 回、令和 4 年度に 1 回、令和 5 年度に 1 回開催され、会合では、農地の集約、栽培技術や試験結果等の情報交換、地域の問題などについて議論されてきた。

また、令和 3 年度から会員の米を稲作研究会名義で町のふるさと納税返礼品として出品を開始したところ、これまでに 90 件の注文があり、一宮産米の PR に貢献している。



図 1 一宮町稲作研究会ロゴ

(2) 農地集約の促進

一宮町では、令和 3 年度から農地中間管理事業の活用に入っており、利用実績は年々増加している。同時期に研究会が設立されたことで、BIG 5 と町の意味疎通がしやすくなり、BIG 5 の利用実績も伸びている。また、BIG 5 間でも今後それぞれが担っていく地区割などについても議論がされており、農地中間管理事業を活用した農地の集約が進められている（図 2）。

表 1 一宮町農地中間管理事業の実績に対する BIG 5 の実績と割合（単年ごと）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度※
町全体 (ha)	4.9	12.7	15	15.6
BIG5 合計 (ha)	2.9	7.8	12	11.9
BIG5 割合 (%)	59.2	61.4	80	76.3

※令和 5 年度は 11 月までの実績。

(3) 規模拡大に対応する省力化技術、新品種の導入

BIG 5 への農地の集積は年々進んでおり、町の水稲耕作面積に占める割合は、令和 2 年度で 42.5%だったのが、令和 5 年度には 51.6%と半数を超えた。さらに、作業受託なども含めると町の耕作面積の約 3 分の 2 を占めている。

規模拡大に対応するために、作業効率化に有効な省力化技術、収穫期の分散や収量の向上に有効な新品種の試験を実施した。さらに試験結果を研究会で共有することで、BIG 5 に以下の技術や新品種が導入された。

ア 規模拡大に対応する省力化技術

育苗、田植え作業を省力化できるドローン播種による直播栽培技術を1戸が導入した。また、播種時に苗箱へ肥料を入れることで、元肥や追肥の施肥作業を省力化できる水稻育苗箱施肥「苗箱まかせ」を2戸が導入した。

イ 規模拡大に対応する新品種の導入

収穫期の分散に有効であり、安定した多収を得ることができる飼料用米専用品種「ふくひびき」を2戸が導入した。また、米の新たな需要創出として注目されている米粉の専用品種であり、多収かつ地域の作期に合致した米粉用米専用品種「笑みたわわ」を1戸が導入した。さらに、米粉を町の飲食店に配布し、米粉を使用した商品の販売も行われている（写真1）。

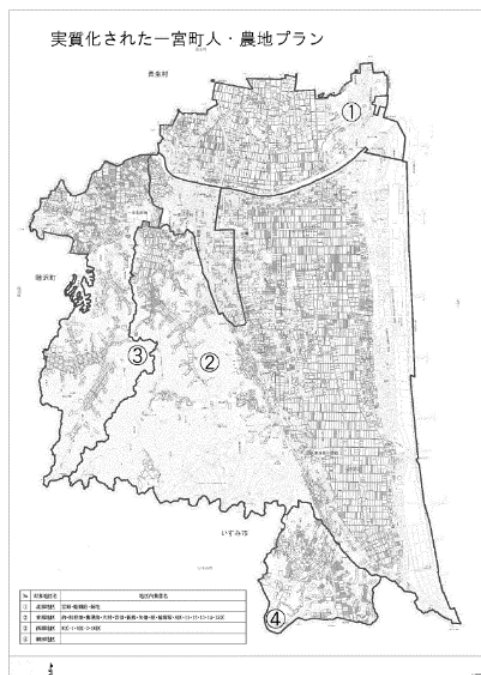


図2 一宮町地区割



写真1 米粉使用カップケーキ

4 将来の方向と課題

BIG5への農地の集積が進む中で持続可能な水稻経営を行っていくには、農地を集約し、作業効率を改善することが重要である。今後も研究会、町、農業事務所が連携し、地域計画の作成を行い、計画的な農地の集約を進めていく。また、集約後の農地耕作条件の改善や水田転作などにも取り組んでいく。

一方で、BIG5が町の水田の多くを担うことで、集落で水田を守っていく意識が低下しており、従来は草刈りや水管理など集落活動で行ってきたことがBIG5の負担になってきている。今後は研究会、町、農業事務所に加え、地域住民や地主の協力を得ながら一宮町の水田営農の将来構想を検討し、持続可能な一宮町の水田保全を目指していく。

5 担当者 東部グループ 佐藤龍一

トマト販売力強化の取組

— 生産者の収益向上をめざして —

活動事例の要旨

トマトの販売単価を向上させて、生産者の収益を向上させる目的で、令和5年度からトマト協議会としてＪＡ長生や全農、園芸協会、県各課等の関係機関と共に長生トマトの販売力強化に取り組んだ。協議会で販売戦略を検討した結果、産地と消費地が近いという「地の利を活かした販売」を強化することとなり、食味・品質調査や販売試験に取り組んだ。

1 活動のねらい・目標

長生地域は一宮町、白子町、長生村、を中心に大玉トマトの生産が盛んである。しかし、近年、資材の高騰に加え、トマトでは大型産地の台頭や大企業の参入などが進み、全国的に販売単価が低下して長生管内のトマト生産者の収益が低下している。そこで、トマト生産者の収益を向上させるよう、生産者やＪＡ長生だけではなく、全農ちばや千葉県園芸協会等の関係機関が一丸となり、単価向上に向けて取り組んだ。

2 活動の内容

(1) 関係機関との協議

長生管内のトマトの単価向上に向けて、令和5年4月以降トマト協議会で検討を重ねた結果、産地と消費地が近いという「地の利を活かした販売」を強化することが決定された。より赤く熟したトマトを鮮度良く販売するため、長生管内の品種の食味・棚持ち調査や県内量販店での販売試験を計画した。



写真1：トマト協議会での検討

(2) 食味・棚持ち調査

ＪＡ長生管内で作付けしている数種類の中から、赤く熟した状態での販売に適した品種を選定するために食味・棚持ち試験を実施した。試験は県の農林総合研究センターに分析を依頼し、収穫後の経過時間毎の果実変化を品種毎に比較した。

(3) 県内量販店での販売試験

通常の出荷、販売試験を行うにあたり、トマト協議会で県内市場や小売店と協議して県内小売店1店舗で7月の2日間行うことが決定した。慣行の収穫より赤く熟したトマトを販売日の午前中に出荷し、午後から店頭で販売できるようＪＡ長生や生産者等と協議した。

3 活動の成果

(1) 食味・棚持ち調査

県の農林総合研究センターに分析を依頼し、J A長生管内の主力品種の食味や棚持ち等の基礎データが得られた。試験結果については関係機関と情報共有し、販売試験に用いる棚持ちの良い品種の選定や今後の有利販売に向けた協議に活用した。

(2) 県内量販店と連携した販売試験

店舗では産直コーナーの一角で販売し、産地が近いことや鮮度が良いことをアピールするためポップを掲示した。単価はJ A長生の同時期出荷品と比べて高い設定としたものの、供試した 155 袋は全て完売となった。



写真 2：販売試験のトマト



写真 3：長生トマトを手にとるお客さん

(3) 進捗状況

7月の販売試験は1店舗での実証であったことから、次の段階として店舗数や販売量を増やして実証するためトマト協議会で検討を重ねている。次の販売試験では、より有利販売に繋がられるよう荷姿やポップの改善、消費者や小売店へのアンケート調査の実施等、得られる情報が最大限になるよう関係機関と共に取り組んでいる。

4 将来の方向と課題

販売試験で得られた結果をJ Aや生産部会との協議に活用し、長生トマトのブランド力の向上を目指す。単価が向上することで、トマト生産者の経営が安定し、新規参入者にも参入しやすい土台作りを図っていく。単価の向上は他県産地との競合もあるため困難な課題であるがトマト生産者の収益が確保されるよう、引き続き、関係機関と共に取り組んでいく、

また近年は、酷暑による影響や黄化葉巻病等の重要病害の被害の発生も確認されている。栽培面でも更に生産者を支えられるよう、技術指導を関係機関と共に取り組んでいく。

5 担当者 東部グループ 牧野健太、富田成美、深尾聡

新規参入した若手農業者の育成

― 農業経営体育成セミナーを中心とした仲間作りの場を ―

活動事例の要旨

長生管内の若手農業者については長生農業独立支援センターの取り組みもあり、親元就農よりも地域外からの新規参入による就農が多い傾向にある。一方で地域とのつながりが少ないことが問題となっているため、農業経営体育成セミナーを中心とした地域や他の農業者と交流と仲間作りを支援した。

1 活動のねらい・目標

長生地域では、生産者の減少に対応するため長生農業独立支援センター（以下支援センターと示す）と関係町村、農業事務所、JAが連携して就農希望者の受け入れに取り組んでおり、新規参入者が増加している。しかし、新規参入者同士や地域の先輩農業者との交流の場は少なく、栽培品目以外の技術や地域の情報を得にくい状況がある。

長生農業事務所では長生農業経営体育成セミナー（以下セミナーと示す）を軸として、支援センター、指導農業士会、農業士協会、長生ヤングパワーズクラブ（以下長生Y P Cと示す）と連携を強化し、地域の農業者との交流や、仲間作りの場を多く設けることで若手農業者の育成を図った。

2 活動の内容

（1）長生地域の新規参入希望者の相談とフォローアップ体制について

新規参入希望者が、相談窓口となる農業事務所、支援センターや市町村などで就農相談を行い、関係機関内で情報を共有し連携して就農前後の支援を行う体制をとっている。



図1 長生独立支援センターの仕組み



写真1 農業士との交流の様子

（2）セミナーの役割の見直しについて

長生地域の現状に合わせてセミナーの対象者を見直した。新規就農者に加えて、支援センターで研修している就農準備段階の研修生もセミナー生とし

て受け入れることとした。また令和4年度には栽培技術情報の習得に加えて、交流を重視したセミナーとなるようカリキュラムや実施方法を見直した。

ア 指導農業士・農業士との交流

農業士を講師とした落花生研修では、落花生の栽培技術を学ぶだけでなく、実習や討議を織り込むことで、地域の中心的な先輩農業者との交流を促した（写真1）。指導農業士との交流の機会では、セミナー生OBを含めた新規就農者等交流会に同席してアドバイスをもらうことで交流を促した（写真2）。

イ 長生YPCとの交流

長生YPC主催の相互視察と管外視察にセミナー生が参加するだけでなく、セミナーの視察へ長生YPC会員にも同行してもらうことにより、セミナー生と若手先輩農業者との交流を深めることができた。

ウ セミナー生同士の交流について

座学と視察研修を実施する際は「仲間作り」が円滑に進むよう必ずディスカッションの時間を設けた。また、今年度は、管外のセミナー生との交流を深めることを目的に夷隅地域のセミナー生との相互視察を実施した（写真3）。



写真2 新規就農者等交流会の様子



写真3 相互視察の様子

3 活動の成果

交流の機会を多く設けたことにより、セミナー生から、「他の新規参入者や地域外の若手農業者と交流できた」「栽培していない作目について知ることができた」「地域の中心的な先輩農業者と交流ができた」の感想があった。セミナー以外の場でもセミナー生同士や先輩農業者が交流を深めており、新規参入者に対する「仲間作りの場」として成果は得られた。

4 将来の方向と課題

新規参入者からは「情報交換ができる仲間をつくりたい」「様々な品目の視察をしたい」「先輩農業者と知り合いになりたい」など交流の場としてセミナーに期待する部分も増えている。技術習得と併せて「仲間作り」の機会として活動を継続し、若手農業者の育成を図っていく。

5 担当者 西部グループ 中原祐樹

水稻直播栽培での苗立ち率向上の取組

— コーティング種子の使用における播種方法の比較 —

活動事例の要旨

水稻の直播栽培は、省力・低コスト生産による規模拡大や農地の有効利用を図るため重要な技術であるが、立地条件やほ場条件・鳥獣害虫により苗立ち率が低いことが課題となっていた。そこで、酸素供給剤と初期病虫害防除剤をコーティングしたリゾケア XL コーティング種子を使用した栽培試験を行ったところ、中山間地の湿田でもドローンや乗用播種機での直播により十分な収量が得られた。

1 活動のねらい・目標

中山間地域での直播栽培は、ほ場の均平や水管理等の条件により十分な収量が得られていなかった。そこで、苗立ち率の向上や病虫害の初期防除を図るためリゾケア XL コーティング種子を使用した湛水直播栽培試験を実施した。

2 活動の内容

(1) 栽培概況

試験は長柄町千代丸の隣接2ほ場（A区23.8a、B区59.6a）で実施した。品種は両区ともに「アキヒカリ」を供試し、4月25日に播種を行った。A区は播種機による点播（播種量は10a当たり2.1kg）、B区はドローンによる散播（播種量は10a当たり3kg）とした。B区は畦畔沿いに播種ムラが生じたことから、畦畔沿いは手播きで播種密度を補正した。

代かき、中干しは両区同様に行い、代かきは4月20日～21日、中干は自然落水とした。落水はA区が8月12日、B区は無しとした。A区・B区ともに鶏糞を基肥に、追肥として尿素を散布した（表1）。除草剤は両区ともに4月29日にプライオリティフロアブルを施用し、その他の病害防除は両区ともに無しとした。

表1 施肥設計

区	施肥日	肥料名	施用量 (kg/10a)	窒素 (kg/10a)	リン酸 (kg/10a)	加里 (kg/10a)
A区	2月	鶏糞	165	4.6	8.4	8.1
	5月26日	尿素	8	3.68	—	—
	7月10日	尿素	1	0.46	—	—
B区	11月	鶏糞	130	3.6	6.59	6.34
	7月10日	尿素	3.3	1.52	—	—

(2) 試験結果

ア 苗立ち率と苗立ち 1 か月後の生育

苗立ち率は両区ともに 100%以上となっており、いずれの試験区もほぼすべての種子が発芽したと考えられた。

苗立ち後約 1 か月の茎数は、目安の 450 本/㎡近くとなった。A 区と B 区の茎数の差は中干し時の自然落水が影響し、A 区は落水が早く茎数の増加がやや抑えられ、B 区は一部滞水した場所で茎数の増加が止まらなかった。



写真 1 点播による苗立ち状況

表 2 苗立ち率と苗立ち 1 か月後の生育

区	苗立ち調査（5月12日調査）			苗立ち 1 か月後調査（6月8日調査）		
	苗立ち本数 (本/㎡)	播種粒数 (粒数/㎡)	苗立ち率 (%)	茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉色 (SPAD 値)
A 区	98	82	119.5	396.0	35	38.2
B 区	126	117	107.6	588.0	38	37.4

イ 幼穂形成期と出穂 10 日後の生育

A 区・B 区ともに幼穂形成期は一般的な生育目標と比較して茎数が多く、草丈が長かった。また、6 月下旬の幼穂形成期では中干し状態であった。

出穂後 10 日では、稈長・穂長がやや長い、倒伏は A 区・B 区ともにほとんど認められなかった。

表 3 幼穂形成期と出穂 10 日後の生育

区	幼穂形成期（6月30日調査）			出穂 10 日後調査（7月27日調査）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD 値)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	葉色 (SPAD 値)
A 区	61	583.6	37.9	82	18.1	431	35.1
B 区	59	566.0	34.5	75	17.4	430	28.4



写真 2 6月30日の生育状況（左：点播、右：ドローン播種）

ウ 収量

農家実収量は A 区・B 区ともに目標収量の 660kg/10a を上回った。一穂粒数はやや少なかったが、玄米千粒重はやや大きめの粒であった。しかし、早刈りのためか青米など未成熟米の混入も多く、登熟歩合はやや低かった。また、ドローン播種をした B 区では、根張りがやや浅く、根本からの転び倒伏が一部見られた、または場内でのばらつきがあったことから生育密度もほ場内で差があり、出穂期や成熟期もばらつきが見られた。

表 4 収量構成要素および農家実収

	㎡当たり 穂数 (本)	一穂 粒数 (粒)	㎡当たり 粒数 (粒)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	計算 収量 (kg)	精玄 米重 (kg)	収穫日	農家 実収 (kg)
A 区	431	81.9	35,300	80.1	21.6	614	611	8/26	780
B 区	430	87.9	37,800	79.4	22.2	665	566	8/21	690

注) 計算収量、精玄米重及び農家実収は 10a 当たり重量



写真 3 8 月 14 日の出穂状況 (左: 点播、右: ドローン播種)

3 活動の成果

コーティング種子を使用した今回の直播栽培では、播種機による点播、ドローンによる播種のどちらも苗立ち率が非常に良く、目標収量の 10a 当たり 11 俵を上回ったことから中山間地での栽培技術として有効と考えられた。播種方法を比較すると播種機による点播は、10a 当たり 2.1kg の播種量で十分な苗立ち本数が確保できることが明らかとなった。ドローンによる散播は、苗立ち率は問題ないものの、播種ムラが生じやすい課題が明らかとなった。

4 将来の方向と課題

実施農家は育苗の手間や施設の必要がなく、初期病虫害の被害も少なく、十分な収量を得られたことから満足している。ドローン播種は労力削減効果が高いため、均一な播種、根張りの浅さ等の課題が解消できれば普及性が高い。

- 5 担当者 西部グループ 塩入貞雄、小宮良美、高内滯奈
東部グループ 佐藤龍一

タマネギ産地におけるべと病防除体系の検討

— 地域全体での防除意識の向上 —

1 活動の背景・ねらい

タマネギ栽培で課題となっているべと病は菌胞子が風で拡散するため、地域全体で防除する意識が必要である。J Aや生産者との意見交換の中では、将来的にドローンを使用した一斉防除の必要性も挙げられている。地域全体でのべと病防除体制の確立に向け、組合員の防除体系の意識向上と将来的な一斉防除を視野に入れたドローンの試験導入を実施しその効果を確認する。

2 活動の内容

(1) 関係機関との連携強化

白子町農業振興会議で地域全体での防除体制を提案し、その結果、J Aはドローン等を利用した広域防除体系、町は広報誌への白子町町民への防除喚起資料の掲載等を検討することとなった。

(2) ベと病防除体系の検討

ア ベと病防除を重点とした講習会

べと病の基本的な発生とその防除について、白子町玉葱出荷組合とJ A長生北部営農購買センターと連携し、講習会を2回(7月、10月)開催した。

組合員からは、改めて予防散布の重要性と耕種的な防除について、参考になったとの声が聞かれた。

イ ドローン防除試験について

J Aと連携してドローンでの散布試験及び実演会を令和5年3月に白子町で実施した。防除効果や散布時間を手散布と比較した結果、べと病の防除効果は、手散布と同等で薬害も認められなかった。また、散布時間は手散布区の10分/10aと比較してドローン散布区では、1分30秒/10aとなり、大幅な時間短縮となった。



写真 ドローン散布状況

3 今後の取組

ドローン防除は防除時期や回数、使用農薬を変更し、令和6年2月中旬から再度実証試験を開始する予定である。これらの結果を積み重ねて、地域全体での防除体制の確立に向け、組合員の防除体系の意識向上や一斉防除等も視野に入れたドローンを活用した省力散布を目指す。

4 担当者 東部グループ 秋葉一夫、高原草

一宮・岬梨組合一宮支部における、梨の新規就農者の育成

— 新規就農者の栽培技術の向上をめざして —

1 活動の背景・ねらい

一宮・岬梨組合一宮地区は、「幸水」の簡易被覆（雨除け）栽培により県内で最も出荷が早く、市場から2L以上の大玉出荷と出荷量の維持が求められている産地である。一方で一宮支部の組合員数は高齢化と担い手不足で年々減少している。その打開策として、長生農業独立支援センターと共に新規就農者を募ったところ、令和5年度、1名が新規就農し、もう1名が組合員のもとで研修を受けることとなった。そこで新規就農者の定着とさらなる増加のため、栽培講習会や玉伸び調査、個別巡回を通じて新規就農者の技術向上を目指した。

2 活動の内容

（1）栽培講習会

樹の管理作業、病虫害や生理障害の発生予防に関する指導は栽培講習会を通じて行った。その結果、新規就農者は年間を通じた園地管理能力を習得した。



写真 秋の枝抜き講習会の様子

（2）「幸水」の玉伸び調査

新規就農者が自分の肥大状況を把握できるように玉伸び調査を実施したところ、やや小玉傾向とな

っていた。そこで、大玉果実を生産するために講習会や個別巡回で早めの摘果作業や新梢管理の実施を促した結果、大玉の果実の生産に繋がった。

（3）個別巡回による重点指導

摘果、新梢管理、枝抜き、せん定等の作業を個別巡回により指導した。実技を交えて説明することにより理解度が増した。また、次期作での黒星病発生を減少させるため、注意喚起を行った結果、落葉処理と秋季防除が実施された。

受粉用の梨花粉の確保に向けて、花粉採取方法を個別巡回で詳しく指導した。その結果、受粉に必要な花粉量や「豊水」等からの採取方法が理解された。

3 今後の取組

現在、新規就農者と2年後に就農予定の新規就農希望者がいるので、引き続き重点的に指導を行い、新規就農者の定着や経営の安定化に向けて栽培管理技術の向上や規模拡大に向けた支援を行う。

4 担当者 東部グループ 小野瀬優哉

歴史ある長南町レンコン産地を守る

— 長南町蓮根組合の活動を通して —

1 活動の背景・ねらい

長南町は県内有数のレンコン産地として知られているが、近年は高齢化等に伴って生産者数、栽培面積とも減少している。そこで、産地の維持・発展を図るため、長南町蓮根組合の活動を通じて、新規参入者の受入体制の整備、若手を中心とした既存の生産者の規模拡大、経営向上等を支援した。

2 活動の内容

(1) 研修受入体制の整備

レンコン栽培には独特な技術が必要で、未経験の新規参入者が就農するためには技術研修が欠かせない。これまでは個別に依頼を受けた生産者が研修を受け入れてきたが、個人の負担が大きいことから、組合が受け入れて組織として研修を実施するよう働きかけた。その結果、長南町蓮根組合は長南町、J A長生、長生農業事務所と連携して受け入れ体制を整備していくこととなった。

(2) 市場・先進地視察研修

ア 長印船橋青果（株）視察（船橋市地方卸売市場）

販路拡大を目指して市場視察を行った。他組合と長南町蓮根組合の品物を比較し、市場の担当者から、長南産は品質が良く調製等にも問題無いので是非出荷してほしいとの評価を受けた。今後、同市場へ出荷を行っていくこととなった。



写真 出荷物を比較する組合員

イ 株式会社佐倉れんこん視察

若手生産者の規模拡大に向け、新規参入で大規模にレンコンを栽培する法人を訪ねた。市場出荷だけでなく周辺の学校給食用等の契約出荷を行うことで、調製作業の簡略化による人件費の抑制、販売価格の安定を図っているという話に関心が集まっていた。

3 今後の取組

(1) 新規参入者の受入体制の整備

組合と関係機関との連携を進め、受入に関する手順や研修内容などについてのマニュアル作成の他、住居や作業場、就農のための空きほ場の確保などに向けた支援体制の構築を支援する。

(2) 若手生産者の規模拡大

栽培技術の向上などの経営支援に加え、空きほ場について情報の収集・提供を行い、規模拡大を促進する。

4 担当者 西部グループ 本居真一

水稻緑肥活用による化学肥料低減に向けた栽培技術の実証

— ヘアリーベッチの事例 —

1 活動の背景・ねらい

肥料等の資材費高騰に対し、化学肥料を減らした栽培技術が求められていることから、窒素固定効果の高い緑肥（ヘアリーベッチ）を活用した水稻栽培の実証試験を行い、化学肥料削減のための栽培技術のポイントを検証した。

2 活動の内容

（1）実証試験の栽培概要

試験は長南町で実施し、令和4年10月にヘアリーベッチを10a当たり3kg播種し、軽く耕耘した。3月には草丈が45cm程度に伸びたため、刈込を実施してから耕耘を実施し、元肥は無施用とした。その後、入水・代掻きは、通常に実施した後、4月20日に水稻（品種：粒すけ）を移植した。



写真 刈込前のヘアリーベッチ

（2）実証結果と栽培のポイント

ヘアリーベッチのすき込みによる窒素供給量は10a当たり5.68kgと推定された。慣行の水稻栽培では基肥・穂肥を一発肥料により窒素7kg程度を肥料で施用しており、その81%に相当すると考えられた。

水稻栽培では幼穂形成期以降も葉色が濃い状態が続いたことから、追肥についても無施用とした。

坪刈りでは一穂粒数は88.3粒と多く、登熟歩合は89.5%と高い結果となったが、実収量では10a当たり500kgとやや少ない結果となった。これは穂数が少なかったことが原因と考えられた。

この結果から、ヘアリーベッチを活用した水稻栽培では、元肥を無施用としても生育に問題がないものの、穂の充実を図るため、葉色に係らず穂肥を施用することが必要と思われた。

（3）化学肥料削減による費用低減効果

ヘアリーベッチの種子代は10a当たり2,900円程度であり、基肥一発肥料を無施肥とした場合、資材費は60%程度低減可能と考えられた。

3 今後の取組

実施組合は、栽培面積を拡大し、化学肥料低減によるコスト削減を図ることとなった。令和5年度の試験で明らかとなった改善点を活かして、引き続き、農業事務所は収量向上に向けた支援を行う。

4 担当者 西部グループ 塩入貞雄

ネギの安定生産を目指して

— 夏ネギ栽培研修会・トンネル設置実演会の開催 —

1 活動の背景・ねらい

長生地域では、秋冬・春ネギ栽培が中心となっているが、夏ネギ栽培（トンネル栽培・露地栽培）に取り組む生産者や関心を持っている生産者が増えている。秋冬ネギ以外の作型を取り入れることで、ネギの出荷期間の拡大やリスク分散が期待される。そこで、夏ネギ栽培の推進と関心がある生産者間の交流を目的に研修会とトンネル設置実演会を実施した。

2 活動の内容

（１）夏ネギ栽培（トンネル栽培・露地栽培）研修会の開催

9月13日に夏ネギ栽培の基礎知識習得を図るためにＪＡ長生ねぎ協議会出荷者及び新規就農者を対象に研修会を開催したところ、若手生産者を中心に生産者20名、及び関係機関が参加した。

農林総合研究センターから2条トンネル栽培、農業事務所から1条トンネル栽培、及び露地栽培の栽培上の要点について講義を行った。また、参加者間で夏ネギ栽培をテーマに情報交換を行い疑問点の解消に努めた。参加者からは夏ネギ栽培の概要を理解できたとの感想が聞かれた。

（２）トンネル設置実演会の開催

1月20日に2条トンネル、23日に1条トンネルの設置実演会を開催した。9月の研修会出席者や関係機関が参加し、トンネル設置経験がある生産者から、現地ほ場でトンネルの設置方法や設置時の注意点について学んだ。風に飛ばされにくくする工夫や設置順序等、経験に基づく説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていた。

また、疑問点について参加者間で積極的に情報交換が行われ、トンネル栽培に関心を持つ生産者の交流の場となった。後日、実演会の方法を参考にトンネルを設置した参加者もあり、関心の高さがうかがえた。



写真 1条トンネル設置実演会

3 今後の取組

引き続き夏ネギ栽培について学ぶ機会や生産者同士の交流の場を作り、ネギの安定生産に向けて支援していく。

4 担当者 西部グループ 林めぐみ、安江園子 東部グループ 高原草

長生ヤングパワーズクラブと地域の新規就農者との交流促進

～農業経営体育成セミナー生を交えた相互訪問を開催～

長生農業事務所改良普及課 令和5年8月23日発

長生地区の青年農業者で構成される「長生ヤングパワーズクラブ」（以下、YPC）は、地域の青年農業者同士の交流促進と資質向上に向けて活動をしています。8月10日に長生地域の新規就農者や就農希望者との交流を目的に、農業経営体育成セミナー生を交えて会員同士のほ場を視察する、相互訪問を開催しました。

当日は、長生 YPC 会員6名とセミナー生4名が参加し、YPC 会長の水田や YPC 会員のトマトハウスを視察したのち、意見交換会を行いました。

セミナー生からは、「先輩農業者の事例を見ることができてよかった」、YPC 会員からは、「新たな地域農業の担い手であるセミナー生と交流を持つことができたので、来年以降も開催したい！」等の意見が聞かれ、有意義な交流の場となりました。



YPC 会長の水田を視察



YPC 会員とセミナー生との意見交換

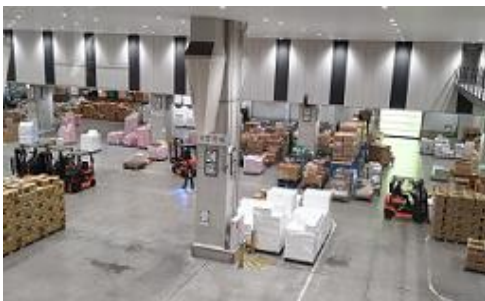
JA 長生施設野菜部会 青年部が豊洲市場を視察

長生農業事務所改良普及課 令和5年8月29日発

JA 長生施設野菜部会は、「長生（ながいき）トマト」ブランドとして、大玉トマトの周年栽培を行っており、そのほとんどを市場に出荷しています。そこで、青年部8名、JA担当者2名、農業事務所が、市場との情報交換を行うため豊洲市場を視察しました。

当日は、現在使用している規格表や、選別基準について市場関係者とともに確認し、市場評価の向上に向け意見交換を行いました。また、市場関係者の説明を受け、他産地のトマトの品質を確認したほか、「自動立体低温庫」や「フレッシュ・ラボ（調理室）」などの設備も見学しました。参加者からは、「他の生産者とも市場要望を共有し、販売先から選ばれるトマトを生産していきたい」「フレッシュ・ラボを活用して、長生トマトのPR活動を行いたい」との感想がありました。

農業事務所では今後も産地の課題解決を支援し、産地の振興に取り組んでいきます。



入荷スペース



規格を確認する様子

ねぎ栽培知識の向上を目指して

～夏ねぎ（トンネル栽培・露地栽培）栽培研修会の開催～

長生農業事務所改良普及課 令和5年10月3日発

農業事務所では、9月13日にねぎ生産者を対象に、夏ねぎ栽培（トンネル栽培・露地栽培）の基礎知識向上を図るための研修会を開催しました。当日は、若手生産者を中心に生産者20名及び関係機関が参加しました。

農林総合研究センター東総野菜研究室からは2条トンネル栽培、農業事務所からは1条トンネル栽培、露地栽培の栽培上の要点について講義を行いました。その後、参加者間で夏ねぎ栽培や出荷規格に関する疑問点や悩み等について情報交換を行い、さらに理解を深めました。

参加者からは、「夏ねぎ栽培の概要が理解でき、今後のやる気につながった」等の前向きな感想が聞かれました。

農業事務所では、今後もねぎ産地の活性化のための支援をしていきます。



熱心に講義を聞く参加者



情報交換の様子

経営体育成セミナーで落花生研修を開催しました！

～新規就農者の仲間作りの場を～

長生農業事務所改良普及課 令和5年11月6日発

長生農業事務所では、9月7日（木）に、長生地域の新規就農者を対象に実施している農業経営体育成セミナーの一環で、落花生研修を開催しました。当地域のセミナー生は新規参入者の割合が高く、殆どの方がネギを栽培しています。

今回は、多くのセミナー生が、ネギ栽培に組み合わせることができる品目を検討していることから、「初期投資が少なく導入しやすい落花生」の研修を開催しました。管内の農業士に講師を依頼し、ほ場を視察しながら栽培上のポイントについて説明を受けた後、収穫実習を行い、最後に講師からアドバイスをいただきました。セミナー生からは「落花生の知見が深まり、先輩農家やセミナー生同士で情報交換もできた。」との感想がありました。

農業事務所では座学などによる落花生栽培の推進を行うだけでなく、セミナーの開催により、情報交換による仲間作りの場をつくるため支援をしていきます。



落花生栽培のポイントについて説明する様子



落花生収穫方法実演の様子

集落営農視察研修会の開催

～これからの集落営農組織の設立に向けて～

長生農業事務所改良普及課 令和5年11月8日発

10月26日、茂原市八幡原地区を対象に、集落営農組織の設立や基盤整備事業の先進的な営農を学ぶことを目的とした視察研修会を開催したところ、関係機関を含めた22名の参加がありました。農業事務所では、当地区を県の集落営農加速化事業における重点支援対象集落としており、組織の設立や高収益作物の試作などを支援しています。

当日は、香取市「(農)ファーム Omi」、及び横芝光町「(農)篠本営農組合」の組織づくりと、基盤整備後の野菜栽培の先進事例について、組合長や担当者から説明を受け、現地ほ場を視察しました。参加農家は、排水方法や野菜栽培の実際について細かな質問を重ね、自分たちの試作栽培へ取り入れようと熱心に説明を受けていました。

農業事務所では、集落営農としての組織づくりや高収益作物に対する栽培指導を併せて、引き続き支援していきます。



高収益作物の取組ほ場状況



集落営農組織づくりへの取組説明

令和5年度 ちば新農業人サポート事業
新規就農者等交流会を開催！
～新規就農者同士、さらに地域内の農業者との交流の場づくり～

長生農業事務所改良普及課 令和5年11月8日発

長生地域農業の持続的な発展をめざし、新規就農者が相互に交流を図るとともに、同地域内の農業者や指導農業士とも交流を深めるため、10月16日に新規就農者等交流会を開催しました。

新規就農者8名、地域内の農業者2名、指導農業士1名、関係機関職員4名の計15名が参加し、ねぎほ場や、いちごハウスを視察したのち、意見交換会を行いました。

参加した新規就農者からは、「地域内の先輩農業者の就農に至る経緯や、ハウスなどへ投資した金額や所得などのリアルな声を聴けて良かった」、「名刺交換を行い、つながりができた」、地域内の農業者からは、「新規就農者とかかわりを持つ良い機会になった。今後アドバイスをしてあげたい」等の意見が聞かれ、有意義な交流の場となりました。

長生農業事務所は、今後も新規就農者への支援を推進していきます。



ねぎほ場を視察



いちごハウスを視察

経営体育成セミナーで相互視察研修を開催しました！

～長生と夷隅のセミナー生同士の交流を深めるために～

長生農業事務所改良普及課 令和5年12月8日発

長生、夷隅の両農業事務所では、地域の新規就農者を対象に、農業経営体育成セミナーを開催しています。この一環で、両セミナー生同士の交流を深めることを目的に、11月10日（金）に合同の視察研修を開催したところ17名の参加がありました。

今回は、長生のセミナー生で、長生村で新規就農した長生村いちご直売 Yucatan Berry 代表の都築ゆかり氏と、長南町で新規就農した有機水稻栽培の(株)ながいき農園代表の酒田海氏を視察しました。2つの視察先から、就農の経緯や将来の展望を聞き、夷隅と長生のセミナー生同士で情報交換を行いました。セミナー生から「他のセミナー生の熱い思いに感化された」「夷隅地域のセミナー生と繋がりを持てるようになった」などの感想がありました。

農業事務所は、地域の枠を越えた若手生産者ネットワークづくりを支援していきます。



長生村いちご Yucatan Berry 視察の様子



(株)ながいき農園視察の様子

主 な 出 来 事

日 時	内 容	場 所	参加者数
4月7日	白子町玉葱出荷組合 葉ニンニク出荷反省会	J A 長生白子選果場	10
4月7日	白子町露地野菜出荷組合 第47回通常総会	JA長生白子支所	14
4月11日	J A長生施設野菜部会 春トマト部共進会	J A グリーンウェーブ長生、及び各圃場	15
4月13日	茂原蔬菜出荷組合研究会 R4報告会・R5事業計画検討会	東郷福祉センター	35
4月14日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部圃場巡回	J A グリーンウェーブ長生、及び各圃場	27
4月19日	長南町露地野菜出荷組合ソラマメほ場巡回	J A 長南支所	10
4月20日	白子町たまねぎ祭り実行委員会	白子町役場	30
4月20日	J A 長生施設野菜部会 青年部トマトキャンペーン	千葉県庁生協	8
4月21日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
4月21日	J A長生施設野菜部会 抑制トマト部会議	J Aグリーンウェーブ長生	11
4月25日	白子町玉葱出荷組合 葉タマネギ出荷反省会	J A 長生白子選果場	7
4月25日	白子町玉葱出荷組合 タマネギ出荷査定会	J A 長生白子支所	32
4月27日	農事組合法人長生産直トマト部ほ場巡回	白子町・茂原市	8
5月1日	J A長生施設野菜部会 越冬トマト部会議	J A グリーンウェーブ長生	12
5月2日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部圃場巡回	J A グリーンウェーブ長生、及び各圃場	24
5月8日	プレミアム夏ねぎ査定会	JA長生本納支所	15
5月9日	長生地区指導農業士会サツマイモ苗定植指導	東浪見小学校	4
5月13日	J A 長生施設野菜部会 青年部トマトキャンペーン	ヴェルジェ 津田沼店、大宮店、越谷店	9
5月14日	令和4年産（秋冬・春）令和5年産（夏） 長ねぎ出荷調整施設利用者会議	JA長生白子支所	15
5月15日	第1回長南町ドローン防除者連絡協議会	長南町役場分館保健センター2階第1会議室	20
5月17日	長生村農業技術連絡会議	長生村役場	13
5月17日	JA長生水稲育苗反省会	JA長生本所	12

日 時	内 容	場 所	参加者数
5月18日	長生いちご研究会育苗ほ場巡回	茂原市、一宮町	7
5月22日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部圃場巡回	J A グリーンウェーブ長生、及び各圃場	24
5月23日	第1回長南町種子生産組合役員会	JA長生長南支所	16
5月25日	一宮・岬梨組合 緑枝管理講習会	一宮町	40
5月29日	長生いちじく研究会総会	長生合同庁舎	6
5月29日	夏ねぎ査定会および令和4年産ねぎ反省会	JA長生本納支所	51
5月30日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	12
5月31日	長生農業塾ネギコース（2回目）	JA長生高根支所	22
6月1日	経営体育成セミナー開講式	長生合同庁舎	17
6月1日	経営体育成セミナー基本研修（長生地域の農業について）	長生合同庁舎	5
6月1日	経営体育成セミナー専門研修（プロジェクト発表について）	長生合同庁舎	9
6月1日	経営体育成セミナー総合研修（経営・自己の現状把握）	長生合同庁舎	2
6月5日	J A 長生施設野菜部会 抑制キュウリ部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	8
6月5日	J A 長生施設野菜部会 春トマト部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	12
6月6日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト反省会	J A グリーンウェーブ長生	30
6月6日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部全体会議	J A グリーンウェーブ長生	19
6月7日	J A 長生施設野菜部会 養液トマト部圃場巡回及び栽培講習会	白子野菜選果場、及び各圃場	20
6月9日	長生村露地野菜組合 葉タマネギ講習会	J A 長生高根支所	5
6月9日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	8
6月9日	長南町蓮根組合総会	J A 長南支所	13
6月12日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	15
6月13日	長南町蓮根組合視察研修会	茨城県土浦市	10
6月14日	令和4年度女性梨栽培技術講習会 第1回緑枝管理研修	いすみ市	6

日 時	内 容	場 所	参加者数
6月16日	長生農業フォーラム第1回実行委員会	長生合同庁舎	15
6月16日	白子町稲作研究会ほ場巡回	JA長生白子支所	10
6月16日	JA長生茂原蔬菜出荷組合令和4年度通常総会	茂原市内	21
6月17日	産直広場太陽 出荷者会 総会	長柄町公民館	—
6月19日	土地改良事業「両総松潟支線」推進協議会(白子町)	白子町役場	15
6月19日	長生いちご研究会総会	長生合同庁舎	8
6月23日	白子町玉葱出荷組合 理事会	J A 長生白子支所	10
6月23日	長生露地野菜出荷組合 ネギ巡回	一宮・長生村	3
6月26日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部共進会	J A グリーンウェーブ長生	8
6月27日	長生農業塾ネギコース（3回目）	JA長生高根支所	15
6月27日	水稻防除安全対策会議	睦沢町役場 3 階会議室	14
6月29日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト栽培部講習会	J A グリーンウェーブ長生	24
6月29日	長南町蓮根組合ほ場巡回	長南町	12
6月30日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
6月30日	一宮・岬梨組合研究部 園地巡回	一宮町 いすみ市	15
7月3日	J A 長生施設野菜部会 春トマト部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	8
7月3日	第2回長南町ドローン防除者協議会	長南町役場2階会議室	18
7月3日	経営体育成セミナー基本・専門研修（病害虫対策）	長生合同庁舎	11
7月4日	本納蔬菜部通常総会	JA長生本納支所	45
7月4日	ブランド米研究会	JA長生睦沢支所2階会議室	23
7月5日	第2回長南町種子生産組合役員会	JA長生長南支所	15
7月7日	J A 長生施設野菜部会 青年部市場交流会	豊洲市場	16
7月10日	小菊の会ほ場巡回	長生村、茂原市、長南町、長柄町	11

日 時	内 容	場 所	参加者数
7月11日	白子町玉葱出荷組合 講習会	J A 長生白子支所	23
7月11日	J A 長生施設野菜部会 抑制キュウリ栽培講習会	J A グリーンウェーブ長生	24
7月11日	J A 長生施設野菜部会 抑制キュウリ生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	6
7月11日	長生農業独立支援センター協議会通常総会	J A 長生本所	—
7月13日	長生地区指導農業士会家族交流会	長柄町	29
7月13日	J A 長生園芸組織団体長会議	J A 長生本所	29
7月14日	令和5年産ながいき梨「幸水」査定会	J A グリーンウェーブ長生	57
7月14日	経営体育成セミナー総合研修（ライフプラン）	長生合同庁舎	1
7月18日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト栽培講習会	J A グリーンウェーブ長生	20
7月19日	長生露地野菜出荷組合 ねぎ圃場巡回	一宮・長生村	20
7月21日	JA 長生本納蔬菜部研究部試験圃場巡回	JA 長生本納支所	49
7月24日	令和5年度農産物共進会	J A グリーンウェーブ長生	12
7月25日	一宮町稲作研究会会合	一宮町役場	8
7月25日	茂原稲作部会研修会	JA 長生東郷支所	19
7月26日	J A 長生園芸協議会 設立総会	J A 長生本所	31
7月27日	白子町たまねぎ祭り実行委員会	白子町役場	28
7月28日	白子町玉葱出荷組合 タマネギ出荷反省会	J A 長生白子支所	28
7月31日	JA 長生ねぎ協議会役員会	JA 長生本納支所	23
8月2日	水稻種子現地指導会	長南町（採種ほ場）	30
8月7日	農山漁村男女共同参画長生地区推進会議	長生合同庁舎	9
8月7日	男女共同参画地域セミナー	長生合同庁舎	10
8月8日	白子町玉葱出荷組合 総会	J A 長生白子支所	22
8月8日	J A 長生施設野菜部会 春トマト部反省会	J A グリーンウェーブ長生	20

日 時	内 容	場 所	参加者数
8月9日	白子町農業振興連絡会議	白子町役場	14
8月10日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
8月10日	長生YPC相互訪問	茂原市	11
8月16日	令和5年産ながいき梨「豊水」、「あきづき」査定会	J A グリーンウェーブ長生	40
8月21日	J A 長生施設野菜部会 春トマト部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	12
8月23日	長生いちご研究会育苗ほ場巡回	茂原市、一宮町	8
8月24日	農事組合法人長生産直トマト部ほ場巡回	白子町・茂原市	4
8月29日 30日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト部全戸巡回	一宮町、白子町、長生村	24
8月31日	長南町蓮根組合出荷目揃え会	J A 長南支所	10
8月31日	経営体育成セミナー総合研修（制度資金）	長生合同庁舎	4
9月7日	経営体育成セミナー総合研修（制度資金）	白子町	6
9月11日	J A 長生施設野菜部会 抑制キュウリ査定会	J A グリーンウェーブ長生	24
9月13日	初夏ねぎ（トンネル栽培）・夏ねぎ栽培研修会	長生合同庁舎	25
9月13日	長生いちご研究会花芽検鏡会	長生合同庁舎	3
9月14日	農業実践力向上研修会【第1回】	長生合同庁舎	10
9月20日	長生農業塾ネギコース（4回目）	JA長生高根支所	15
9月21日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト部全戸巡回	一宮町	26
9月21日	長生露地野菜出荷組合 ねぎ全戸圃場巡回	一宮・長生村	5
9月26日	混種防止対策実態調査	長南町（採種ほ場）	5
9月27日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
9月29日	第3回長南町種子組合役員会	JA長生長南支所	14
9月29日	J A 長生園芸園芸協議会理事会	J A 長生本所	13
10月3日	JA長生茂原蔬菜出荷組合ねぎ栽培講習会	茂原市東郷福祉センター	21

日 時	内 容	場 所	参加者数
10月4日	長生農業フォーラム第2回実行委員会	長生合同庁舎	14
10月5日	JA長生水稲栽培講習会	JA長生本所	25
10月5日	小菊の会親株管理講習会	長南町	12
10月6日	JA長生リソケア反省会	JA長生日吉支所	16
10月10日	白子町玉葱出荷組合 理事会	J A 長生白子支所	10
10月11日	令和4年度女性梨栽培技術講習会 第2回秋の枝抜き研修	いすみ市	6
10月13日	長生地区指導農業士会サツマイモ収穫指導	東浪見小学校	4
10月16日	新規就農者交流会	茂原市	12
10月16日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部反省会	J A グリーンウェーブ長生	23
10月17日	白子町玉葱出荷組合 講習会	J A 長生白子支所	20
10月17日	一宮・岬梨組合 秋の枝抜き講習会	いすみ市	40
10月17日	長生いちご研究会ほ場巡回	長柄町、茂原市、長生村、一宮町	9
10月19日	九十九里ねぎ連絡協議会 若手生産者による市場視察研修会	東京都中央卸売市場 大田市場、豊洲市場	25
10月22日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト部全戸巡回	一宮町	26
10月25日	長南町露地野菜出荷組合ほ場巡回、講習会	J A 長南支所、長南町	8
10月26日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
10月26日	長南町蓮根組合講習会	J A 長南支所	6
10月29日	長ねぎ出荷調製施設利用者会議	JA長生白子支所	16
10月31日	白子町玉葱出荷組合 理事会	J A 長生白子支所	10
10月31日	長生W C S 生産出荷協議会臨時総会	長生村役場	20
11月7日	令和5年産「ながいき梨」生産・出荷反省会	J A グリーンウェーブ長生	50
11月7日	長生YPC視察研修	成田氏 旭市	8
11月7日	JA長生ねぎ協議会役員会	JA長生本納支所	17

日 時	内 容	場 所	参加者数
11月8日	白子町玉葱出荷組合 ドローン散布展示圃打合せ	J A 長生白子支所	6
11月8日	長生農業塾ネギコース（5回目）	JA長生高根支所	19
11月9日	J A長生施設野菜部会 越冬トマト部全戸巡回	一宮町	26
11月9日	長生露地野菜出荷組合 ねぎ全戸圃場巡回	一宮・長生村	12
11月10日	経営体育成セミナー合同研修（経営相互訪問）	長生村、長南町	17
11月14日	J A長生農産物共進会（越冬トマト）	一宮町、J A グリーンウェーブ長生	17
11月14日	令和5年産秋冬・春ねぎ販売会議・査定会	J A 長生本納支所	77
11月14日	長南町蓮根組合視察研修会	船橋市、佐倉市	7
11月15日	長生村稲作研究会食味コンテスト表彰式	長生村役場	20
11月15日	産直広場太陽 出荷者会 農業講習会	長柄町公民館	20
11月16日	J A長生施設野菜部会 春トマト栽培講習会	J A グリーンウェーブ長生	25
11月16日	長生いちご研究会ほ場巡回	長柄町、茂原市、長生村、一宮町	8
11月20日	長南町蓮根組合共進会、出荷目揃え会	J A 長南支所	15
11月22日	令和4年度女性梨栽培技術講習会 第3回せんだい研修	いすみ市	6
11月24日	JA長生茂原蔬菜出荷組合研究部会中間圃場巡回	七渡出荷場	29
11月27日	白子町玉葱出荷組合 玉ねぎ収穫機械実演会打合せ	J A 長生白子支所	6
11月27日	経営体育成セミナー合同研修（農作業安全）	東金市	6
11月28日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部全体会議	J A グリーンウェーブ長生	17
11月29日	白子町玉葱出荷組合 葉にんにく部会圃場巡回	白子町	5
11月29日	農業実践力向上研修会【第2回】	長生合同庁舎	13
11月30日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
11月30日	J A 長生施設野菜部会 青年部勉強会	J A グリーンウェーブ長生	18
12月1日	白子町稲作研究会反省会	松家	20

日 時	内 容	場 所	参加者数
12月4日	一宮・岬梨組合 せん定講習会	一宮町	50
12月5日	就農支援体制整備視察研修会	千葉市農政センター	10
12月5日	採取ほ意見交換会	JA長生長南支所	—
12月8日	本納蔬菜部研究部会 掘り取り調査及び試験圃場巡回	J A 長生本納支所	56
12月10日	長生（ながいき）農業バスツアー	一宮町役場他	14
12月11日	一宮・岬梨組合研究部 土壌診断講習会	一宮町	15
12月13日	農事組合法人長生産直トマト部ほ場巡回	白子町・茂原市	4
12月13日	長生農業塾ネギコース（6回目）	JA長生高根支所	18
12月13日	第1回プレミアム夏ねぎ栽培実技研修会	千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸 研究所東総野菜研究室	10
12月13日	経営体育成セミナー総合研修（営農計画作成）	長生合同庁舎	3
12月14日	農事組合法人長生産直ミニトマト部ほ場巡回	白子町・茂原市	8
12月14日	J A長生施設野菜部会 理事会	J A グリーンウェーブ長生	21
12月14日	長生いちご研究会ほ場巡回	長柄町、茂原市、長生村、一宮町	6
12月15日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
12月18日	白子町玉葱出荷組合 葉ニンニク査定会	J A 長生白子選果場	10
12月19日	長生村露地出荷組合 葉タマネギ生育調査巡回	長生村	5
12月19日	J A長生施設野菜部会 春トマト部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	10
12月19日	J A長生施設野菜部会 抑制キュウリ部生産班会議	J A グリーンウェーブ長生	6
12月19日	茂原稲作部会・機械銀行合同肥料農業研修会	JA長生茂原支所	14
12月19日	J A 長生園芸協議会 全体会議	J A 長生本所	27
12月20日 23日	初夏ネギ栽培トンネル設置実演会	茂原市内	17
12月22日	白子町玉葱出荷組合 葉タマネギ生育調査巡回	J A 長生白子選果場	6
12月27日	白子町玉葱出荷組合 ドローン散布展示圃打合せ	J A 長生白子支所	4

日 時	内 容	場 所	参加者数
1月10日	J A長生施設野菜部会 春トマト部生産班巡回	一宮町、白子町、長生村	10
1月16日	JA長生ねぎ協議会市場検討会	東京新宿ベジフル(株),東京青果(株),長印船橋青果(株)	14
1月18日	長生いちご研究会ほ場巡回	長柄町、茂原市、長生村、一宮町	8
1月18日	白子町玉葱出荷組合 葉タマネギ査定会	J A 長生白子選果場	6
1月20日	給田営農組合総会	給田コミュニティセンター	13
1月22日	水稻種子採取ほ設置会議	ホテルポートプラザちば	40
1月22日 25日26日	J A長生施設野菜部会 春トマト部生産班巡回	一宮町、白子町、長生村	7
1月24日	白子町玉葱出荷組合 ドローン散布展示圖打合せ	J A 長生白子支所	6
1月25日	小菊の会反省会	睦沢町	—
1月25日	一宮・岬梨組合 総会	グリーンウェーブ長生	—
1月26日	JA長生水稲育苗担当者会議	JA長生本所	10
1月28日	地引農機利用組合総会	コミュニティセンター東和	13
1月29日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
1月30日	長南町蓮根組合視察研修会	茨城県土浦市、河内町	—
1月31日	長南町種子生産組合役員会	JA長南支所	14
2月2日	長生農業塾ネギコース（閉校式）	JA長生本所	—
2月2日	白子町玉葱出荷組合 葉タマネギ共進会	J A 長生白子選果場	12
2月6日	J A長生施設野菜部会 春トマト部・抑制キュウリ部反省会	一宮町、白子町、長生村	25
2月9日	指導農業士・農業士農業情報交換研究会	一宮シーサイドオオツカ	—
2月13日	J A長生施設野菜部会 春トマト部査定会	一宮町、白子町、長生村	26
2月14日	長生いちご研究会ほ場巡回	長柄町、茂原市、長生村、一宮町	—
2月15日	アグリライフ長生総会	近藤いちご園	—
2月16日	J A 長生農産物共進会（秋冬ネギ）	J A 長生本納支所	—

日 時	内 容	場 所	参加者数
2月17日	岩井第二営農組合総会	岩井区民センター	17
2月20日	千葉県産麦品質向上研修会	株式会社千葉製粉	30
2月20日	J A 長生園芸協議会通常総会	J A 長生本所	31
2月20日	長生農業フォーラム第3回実行委員会	長生合同庁舎	15
2月21日	茂原農産物直売所運営組合通常総会	J A 長生本納支所	42
2月21日	農事組合法人 長生産直 通常総会	白子町 青松庭白砂	39
2月15日	ねぎぼうず総会	旬の里 ねぎぼうず	20
2月26日	水稻優良種子生産管理技術研修	JA長生日吉支所	—
2月28日	長南町東部営農組合高収益作物栽培に係る合同会議	JA長生長南支所会議室	18
2月29日	J A 長生北部営農購買センター生産振興会議	J A 長生白子支所	10
2月29日	一宮町稲作研究会会合	一宮町役場	8
3月1日	経営体育成セミナー閉講式	長生合同庁舎	—
3月5日	外来水生植物対策講習会	長生合同庁舎	20
3月7日	JA長生施設野菜部会 通常総会	長生村交流センター	70
3月12日	水田緑肥巡回調査	長南町・長生村水田ほ場	10
3月13日	睦沢町リゾケア直播実施日	睦沢町水田ほ場	10

令和 5 年度普及活動の実績
普及活動の軌跡
(Part-29)

発行年月 令和 6 年 3 月

発 行 千葉県長生農業事務所 改良普及課

〒297-0026

千葉県茂原市茂原1102-1

TEL 0475-22-1771

FAX 0475-25-2061

URL <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei>